



Östasiatiska museet

デジタルアーカイブ学会 第2回研究大会 ー産業化するアーカイブー



日時 2018年3月9日(金)～10日(土)

場所 東京大学本郷キャンパス
東京都文京区本郷 7-3-1

3/9(金) 医学部鉄門記念講堂 (14:00-17:30)

参加費 正会員・賛助会員 3,000 円、学生会員 2,000 円、非
会員 6,000 円、1 日のみ参加の場合 1,000 円割引

3/10(土) 法学政治学系総合教育棟(ガラス棟)
(10:00-18:00)

基調講演

「コンテンツ産業とデジタルアーカイブ」(仮題)
角川 歴彦 ((株) KADOKAWA 取締役会長)

パネルディスカッション

「デジタルアーカイブ産業の未来を拓く」

緒方 靖弘 (寺田倉庫メディアグループリーダー)
高野 明彦 (国立情報学研究所 教授) (モデレーター)
野口 祐子 (グーグル合同会社 法務部長)
沢辺 均 (株式会社スタジオ・ポット社長)

後援・協賛

一般財団法人角川文化振興財団(予定)
デジタルアーカイブ推進コンソーシアム(予定)
一般財団法人デジタル文化財創出機構(予定)

一般発表 セッション・テーマ

- A1: コミュニティとアーカイブ
- A2: 人々の営みのデジタルアーカイブ
- A3: デジタルアーカイブの理論 (1)
- A4: デジタルアーカイブの理論 (2)
- B1: ミュージアムとデジタルアーカイブ
- B2: デジタルアーカイブの活用
- B3: デジタルアーカイブの手法 (1)
- C1: グローバルな視点とローカルな視点
- C2: 市民から見たデジタルアーカイブ
- C3: デジタルアーカイブの手法 (2)

企画パネル

- (1) デジタルアーカイブ機関の評価手法を考える
- (2) 資料発掘と利活用 -アーカイブサミット 2017in 京都へのリ
ブライ-

後援

日本アーカイブズ学会
記録管理学会
情報知識学会
情報メディア学会
日本デジタル・ヒューマニティーズ学会

文化資源学会
日本教育情報学会
日本出版学会
東京文化資源会議
全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
情報保存研究会
本の未来基金

<http://digitalarchivejapan.org/kenkyutaiikai>

お問合せ: 研究大会事務局: taikai@digitalarchivejapan.org

デジタルアーカイブ学会第2回研究大会

◆第2回研究大会の開催にあたって

デジタルアーカイブ学会第2回研究大会実行委員長 高野 明彦 (たかの あきひこ)

私が考えるデジタルアーカイブ学会の存在意義は、広い意味でのデジタルアーカイブの構築や利用に関心のある人たちが、狭い専門性を越えて集い、自由に意見を交せるフォーラムを実現することです。いわば、従来、異なる学会内の研究会として存在してきたような小さな専門家コミュニティ同士を、デジタルアーカイブに対する共通の関心によって相互接続する「メタ学会」のような存在を目指して欲しいのです。この専門性を越える対話こそがデジタルアーカイブに命を吹き込むと信じるからです。

2017年5月に誕生したばかりの当学会ですが、これまでに入会された約300名の個人会員を中心に、第1回研究大会（岐阜）を始め、公開シンポジウム、4回の定例研究会、IIF Japan 研究会（東京、京都、福岡）などの開催に積極的に取り組んできました。昨年9月に発刊した『デジタルアーカイブ学会誌』は、すでに2号を発行済みです。また、法制度、人材養成、技術、コミュニティアーカイブの各分野について設置された4つの部会と関西支部を中心に、より集中して議論を深める体制も整いました。学会設立初年度に、このように多彩な活動を開始できたのは学会員の皆さんのデジタルアーカイブに関する多面的な関心と、それを我が国のデジタル知識基盤社会構築につなげて行きたいという共通の熱意の表れだと考えています。

第2回研究大会は、このような1年間の学会活動を締めくくるものとして企画しました。学会員の皆さんが日頃取り組んでいる活動について、自由なテーマで発表して議論する機会の提供を目指します。昨年11月の発表募集に対して、口頭発表33件、ポスター発表11件、企画パネル2件の申し込みがありました。実行委員会では、できるだけ多くの学会員に発表の機会を提供したいと考えて、申込者全員に発表いただくことにしました。



プログラムをご覧いただくと分かるように、発表テーマの専門領域は様々で、問題意識も多岐に渡っています。さらに、通常は同じ研究会や学会で決して一緒には話されないような発表が同一セッションに割り振られています。実はセッション分けに当って、従来のような専門性による分類ではなく、取り組んでいる対象や課題の近さを重視しました。その結果、興味のある発表が属するセッションを丸ごと聴講することで、異なる分野の専門家の多様な問題意識に触れる機会が得られるようにと願っています。これこそが当学会のフォーラムとしての価値だと信じるからです。

この第2回研究大会が、本学会を構成する多様な個人会員、すなわち、研究者だけでなく、博物館、図書館、文書館、国、自治体、企業の実務担当者との対話の契機となることを願っています。

デジタルアーカイブ学会第2回研究大会概要

◆開催趣旨

デジタルアーカイブ学会は、21世紀日本のデジタル知識基盤構築のために昨年4月15日に生まれました。関係者の経験と技術を交流・共有し、一層の発展を目指し、人材の育成、技術研究の促進、メタデータを含む標準化に取り組んでおります。さらに、国と自治体、市民、企業の連携、オープンサイエンスの基盤となる公共的デジタルアーカイブの構築、地域のデジタルアーカイブ構築を支援し、これらの諸方策の根幹をなすデジタル知識基盤社会の法制度がいかにあるべきかについても検討をおこなっています。

◆2018年3月9日(金)

東京大学本郷キャンパス・医学部教育研究棟14F(鉄門講堂)

基調講演 「コンテンツ産業とデジタルアーカイブ」(仮題)

角川 歴彦(株)KADOKAWA 取締役会長

パネルディスカッション 「デジタルアーカイブ産業の未来を拓く」

緒方 靖弘(寺田倉庫メディアグループリーダー)

沢辺 均(株式会社スタジオ・ポット社長)

高野 明彦(国立情報学研究所 教授)(モデレーター)

野口 祐子(グーグル合同会社 法務部長)

◆2018年3月10日(土)

東京大学本郷キャンパス・法学政治学系総合教育棟(ガラス棟)1,2F

口頭・ポスター発表、企画パネル、企業展示

◆実行委員会

委員長 高野 明彦(国立情報学研究所 教授)

委員 井上 透(岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所 所長・教授)

坂井 知志(常磐大学・大学院 教授)

数藤 雅彦(五常法律会計事務所)

時実 象一(東京大学大学院情報学環 高等客員研究員)

東 由美子(東京大学大学院情報学環 特任講師)

総務担当理事 柳 与志夫(東京大学大学院情報学環 特任教授)

デジタルアーカイブ学会第2回研究大会会場

- ① 基調講演・パネルディスカッション (2018年3月9日(金) 14:00-17:30)
医学部教育研究棟 14F (鉄門講堂)
- ② 口頭発表、ポスター発表、企業展示 (2018年3月10日(土) 10:00-18:00)
法学政治学系総合教育棟 (ガラス棟)



登壇者プロフィール

◆基調講演：コンテンツ産業とデジタルアーカイブ(仮題)

(株)KADOKAWA 取締役会長 角川 歴彦 (かどかわ つぐひこ)

株式会社 KADOKAWA 取締役会長、カドカワ株式会社取締役会長。

1966 年角川書店入社。情報誌「ザテレビジョン」「東京ウォーカー」、ライトノベル「電撃文庫」「角川スニーカー文庫」など新規事業を立ち上げ、メディアミックスと呼ばれる手法で日本のサブカルチャー文化を牽引する一方、電子書籍ストア「BOOK ☆ WALKER」を開設する等、デジタル事業にも積極的に取り組む。

日本雑誌協会理事長、日本映像ソフト協会（JVA）会長、コンテンツ海外流通促進機構（CODA）代表幹事、東京国際映画祭チェアマン、内閣官房知的財産戦略本部本部員等を歴任。

現在、東京大学大学院情報学環特任教授、財団法人角川文化振興財団理事長、一般社団法人アニメツーリズム協会理事長なども務める。

著書に『クラウド時代と〈クール革命〉』（角川 one テーマ 21、2010 年）、『グーグル、アップルに負けない著作権法』（角川 EPUB 選書、2013 年）、『躍進するコンテンツ、淘汰されるメディア』（毎日新聞出版、2017 年）がある。



◆パネルディスカッション：デジタルアーカイブ産業の未来を拓く

寺田倉庫メディアグループリーダー

緒方 靖弘（おがた やすひろ）

1976 年東京生まれ。1999 年駒澤大学経済学部卒業。同年寺田倉庫入社。企画本部にて文書保管センターなどの立ち上げ、BPO 事業部にて文書・書籍の保管、電子化、検索システムの提案営業を行い、2012 年より映像・音楽媒体の保管、デジタイズ、映像データのストレージ及び動画検索システムの提供などを行うメディアグループを担当。



株式会社スタジオ・ポット社長

沢辺 均（さわべ ひとし）

1956 年、東京生まれ。ポット出版（株式会社スタジオ・ポット）代表、版元ドットコム役員、openBD プロジェクト呼びかけ人、JPO 出版情報登録センター管理委員、東京文化資源会議幹事。2000 年版元ドットコムを 6 出版社で設立して、書誌・書影情報のデータベース化、収集、発信・利用の取組みをはじめ。以降、出版情報登録センター、openBD プロジェクトを通じて、本のメタデータとしての書誌・書影情報の DB 化・利用環境改善に取り組んでいる。



国立情報学研究所 教授

高野 明彦（たかの あきひこ）（デジタルアーカイブ学会技術部会会長）

1956 年生まれ。東京大学数学科卒業。博士（理学）。(株)日立製作所に 20 年間勤務の後、2001 年より現職。現在は東京大学大学院コンピュータ科学専攻教授、国立民族学博物館特別客員教授を併任。また NPO 法人連想出版理事長も務める。専門分野は関数プログラミング、プログラム変換、連想情報学。研究成果の連想検索エンジンは「新書マップ」「想・IMAGINE」「Webcat Plus」「文化遺産オンライン」など数々のサービスに応用されている。著書に『311 情報学—メディアは何をどう伝えたか』（共著、岩波書店、2012 年）、『検索の新地平（角川インターネット講座第 8 巻）』（監修、KADOKAWA/ 角川学芸出版、2015 年）ほか。



グーグル合同会社 執行役員 法務部長

野口 祐子（のぐち ゆうこ）

東京大学法学部卒業。森・濱田松本法律事務所にて 2013 年まで勤務（2008 年より知的財産部門パートナー）。2013 年 12 月より現職。法律事務所在職中にスタンフォード・ロー・スクールに留学、デジタル著作権政策の研究で博士号取得。自由な著作物の流通を支えるライセンス活動であるクリエイティブ・コモンズ・ジャパン（NPO）にも参画。知的財産戦略本部、文化庁、経済産業省をはじめ、審議会の委員経験も多数。著書に『デジタル時代の著作権（ちくま新書）』（2010）。



口頭発表プログラム (2018/3/10) 法学政治学系総合教育棟 (ガラス棟)

ガラス棟 201号室 (2F)		ガラス棟 101号室 (1F)		ガラス棟 102号室 (1F)	
研究発表セッション A1 (10:00 - 11:40)		研究発表セッション B1 (10:00 - 11:40)		研究発表セッション C1 (10:00 - 11:40)	
コミュニティとアーカイブ (坂井知志)		ミュージアムとデジタルアーカイブ (田良島哲)		グローバルな視点とローカルな視点 (原田隆史)	
A11	Web ラジオによる社会デザインとソーシャルイノベーションの可能性 (長坂 俊成 立教大学)	B11	自然史標本データベース「サイエンス・ミュージアムネット」の現状と課題 (細矢 剛 国立科学博物館)	C11	オープンソースを使用した市町村立図書館におけるデジタルアーカイブ構築 (山口 学 佐野市立図書館)
A12	東日本大震災後のコミュニティアーカイブの活動 (北村 美和子 東北大学)	B12	江戸時代の歌舞伎興行に関する資料デジタルアーカイブの充実を目指して (木村 涼 岐阜女子大学)	C12	佐賀デジタルミュージアムの構築 (河道 威 佐賀大学)
A13	地方大学の歩みを記録するデジタルアーカイブ (皆川 雅章 札幌学院大学)	B13	ウェブブラウザでの3Dデータ資料表示 (土屋 紳一 早稲田大学演劇博物館)	C13	地域学習を広く支援する分散型デジタルcommonsの概念 (前川 道博 長野大学)
A14	地域新聞からみる地域特有のメタデータ (石橋 豊之 稚内北星学園大学)	B14	デジタル・アーカイブがもたらす「博物館資料」×「引用先学術成果情報」間のクロスリファレンスの可能性 (大西 亘 神奈川県立生命の星・地球博物館)	C14	国際的な画像共有の枠組みIIIFの課題と展望 (永崎 研宣 人文情報学研究所)
ライトニングトーク 1 (11:40-12:10)		ライトニングトーク 2 (11:40-12:10)		ライトニングトーク 3 (11:40-12:10)	
休憩・昼食 (12:10 - 13:30)					
研究発表セッション A2 (13:30 - 15:10)		研究発表セッション B2 (13:30 - 15:10)		研究発表セッション C2 (13:30 - 15:10)	
人々の営みのデジタルアーカイブ (井上透)		デジタルアーカイブの活用 (長坂俊成)		市民から見たデジタルアーカイブ (皆川雅章)	
A21	労働史オーラルヒストリー・プロジェクト (谷合 佳代子 エル・ライブラリー)	B21	IIIFの研究活用と課題 「顔貌データセット」構築を事例に (鈴木 親彦 人文学オープンデータ共同利用センター)	C21	「日本ニュース」は何を伝えたのか (アリアナ・ドゥフゼル ルーヴアンカトリック大学大学院)
A22	地域文化資源デジタルアーカイブの方法論 (宮本 隆史 東京大学)	B22	デジタルアーキビスト講座の取り組み (塩 雅之 常磐大学)	C22	地域資料をアーカイブする手法としてのウィキペディアタウン、またはウィキペディアとウィキメディア・コモンズ (日下 九八)
A23	伝統技術継承者によるデジタルアーカイブ化の実例と課題 (金城 弥生 日本織物文化研究会)	B23	地域デジタル映像アーカイブの教育活用に関する実践的研究 (北村 順生 立命館大学)	C23	Lesson learned from the Aceh Tsunami of 2004: (Nurjanah Jane Tokyo Metropolitan University)
A24	自然災害により被災した動映像資料の災害対策 (鈴木 伸和 株式会社東京光音)	B24	日本語デジタルテキストの「正書法」を探索した青空文庫 (大久保 ゆう 本の未来基金／青空文庫)	C24	市民とデジタルアーカイブの関係性構築 (田村 賢哉 首都大学東京大学院)
休憩 (15:10 - 15:20)					
研究発表セッション A3 (15:20 - 16:10)		研究発表セッション B3 (15:20 - 16:10)		研究発表セッション C3 (15:20 - 16:10)	
デジタルアーカイブの理論 (1) (生員直人)		デジタルアーカイブの手法 (1) (大向一輝)		デジタルアーカイブの手法 (2) (宮本聖二)	
A31	オープンサイエンス政策と研究データ同盟 (RDA) が進める研究データ共有と、デジタルアーカイブの接点に関する一考察 (林 和弘 科学技術・学術政策研究所)	B31	非接触式イメージスキャナ「オルソスキャナ」の開発 (一ノ瀬 修一 アイメジャー株式会社)	C31	地方自治体が公開する例規集アーカイブの構築と横断検索システムの構築 (原田 隆史 同志社大学)
A32	デジタルアーカイブに関する評価方法の検討 (西川 開 筑波大学大学院)	B32	Cyberforest: 原生自然の環境感性情報の配信とアーカイブの利用 (下徳 大祐 東京大学大学院)	C32	飛騨高山匠の技デジタルアーカイブを活用した地域課題の解決手法の実践的研究 (久世 均 岐阜女子大学)
休憩 (16:10 - 16:20)					
研究発表セッション A4 (16:20 - 17:35)		企画パネル1 (16:20 - 17:35)		企画パネル2 (16:20 - 17:35)	
デジタルアーカイブの理論 (2) (長丁光則)		デジタルアーカイブ機関の評価手法を考える		資料発掘と利活用 ーアーカイブサミット2017in 京都へのリブライー	
A41	コミュニティアーカイブの現状と課題 (坂井 知志 常磐大学)	コーディネーター: 後藤真 (国立歴史民俗博物館) 田良島哲 (東京国立博物館)		コーディネーター: 福島幸宏 (京都府立図書館) 江上敏哲 (国際日本文化研究センター)	
A42	アーカイブズの語源アルケイオンをオンライン・ソースで調べてみる (筒井 弥生)				
A43	服飾分野における機関横断型デジタルアーカイブ構築に向けて (金井 光代 文化学園大学)				
ラップアップ・セッション (17:35 - 18:00)					

ポスター発表プログラム (2018/3/10) 法学政治学系総合教育棟 (ガラス棟 203 号室 (2F))

NO	発表のタイトル	名前	所属
P01	我が国における地方紙のデジタル化状況に関する調査報告	平野 桃子	東京大学大学院情報学環
P02	日本古典籍に関する総合データベースの構築と展開	岡田 一祐	国文学研究資料館
P03	自然史博物館で動画をアーカイブする際に想定される課題	石田 惣	大阪市立自然史博物館
P04	半世紀前の岩波科学教育映画を現代に活かす	長谷川 智子	映像と科学教育の研究会
P05	マンガ・アニメ・ゲーム作品の横断的アーカイブのための作品間関係LODデータセット開発	大石 康介	筑波大学
P06	デジタルアーカイブにおけるDOI活用の可能性	住本 研一	国立研究開発法人科学技術振興機構
P07	若年層の地域理解を促進するためのシリアスゲームの提案	山浦 徹也	首都大学東京大学院
P08	米国大学に所蔵されている対日文化政策に関する占領期資料のデジタル化及び公開	小泉 真理子	京都精華大学
P09	デジタルアースを用いたドローンマップ&アーカイブによる風景資産の活用	渡邊 康太	首都大学東京
P10	戦争を日中両国の視点から捉えるためのデジタルアーカイブ	シン テンカ	首都大学東京
P11	デジタルアーカイブと併用する学び手志向の平和学習教材の制作	秦 那実	首都大学東京大学院

企業展示 (2018/3/10) 法学政治学系総合教育棟 (ガラス棟 203 号室 (2F))

(50 音順) アイメジャー株式会社、株式会社サビア、一般社団法人 ジャパンアーカイブズ、ソニービジネスソリューション株式会社、富士フイルム株式会社、TRC-ADEAC 株式会社、株式会社 東京光音、特定非営利活動法人日本デジタル・アーキビスト資格認定機構、勉強出版

企画パネル

◆デジタルアーカイブ機関の評価手法を考える

国立歴史民俗博物館
後藤真

東京国立博物館
田良島哲

デジタルアーカイブを今後広く展開していくためには、それぞれのアーカイブ機関が、「デジタル化をする意義」を認識し、組織内での理解を得ていく必要がある。また、デジタルアーカイブを適切に公開し、様々な形で利用可能なものとしている機関を広く認知してもらい、グッドプラクティスを多くの機関と共有することも重要である。そのためには、アーカイブ機関の適切な評価を行うことが重要となる。現在、デジタルアーカイブの共通の評価手法としては、アクセス数などしかなく、巨大な機関や優品、もしくは広報に強く長けた機関のみに視点が集中してしまい、地域に密着したアーカイブなどが高く評価されにくいという現状がある。

そこで、本企画セッションでは、デジタルアーカイブ機関の適切な評価手法について、議論のスタート地点を作ることを試みたい。アンカンファレンス形式で、多くの皆様の意見をいただき、広く今後の論点を作っていき、今後の議論へとつなげていきたい。

◆資料発掘と利活用

ーアーカイブサミット 2017in 京都へのリプライー

京都府立図書館
福島幸宏

国際日本文化研究センター
江上敏哲

2017年9月に開催し、300名以上の市民や専門家の参加があった「アーカイブサミット 2017 in 京都」。「社会のアーカイブ化」「アーカイブの社会化」をテーマに、状況レビュー、6つのセッション（「災害とアーカイブ」「空間情報とデジタルアーカイブ」「文化資源をつなげるジャパンサーチ構想」「京都におけるアーカイブの現状と課題」「デジタルアーカイブの情報技術」「デジタルアーカイブ学会の未来」）、セッションの全体レビュー、2つのミニシンポジウム（「届く、使うデジタルアーカイブ」「クールジャパンの資源化について」）、基調講演、シンポジウム「社会化するアーカイブ」という内容で開催した。

このパネルでは、サミットでの議論を振り返りつつ、そこで出された課題へのリプライを行う。特に資料発掘の段階の重要性と、多様な利活用の可能性、ジャパンサーチに代表される「ディスカバナビリティ」や、社会との橋渡しができる人材について力点を置く。

そして、これらの検討を通じて、デジタルアーカイブを社会のインフラとして位置付けるために、どのような構図をひくことが可能か、構想する。是非ご参加いただき、フロアから積極的にご発言いただきたい。